

なるほど!
ザ・ファンド

Q & A

Vol.143

Q. 円/米ドルの相場をみる場合に参考になるのは？

A. 日米の金利差に注目してみましょう。

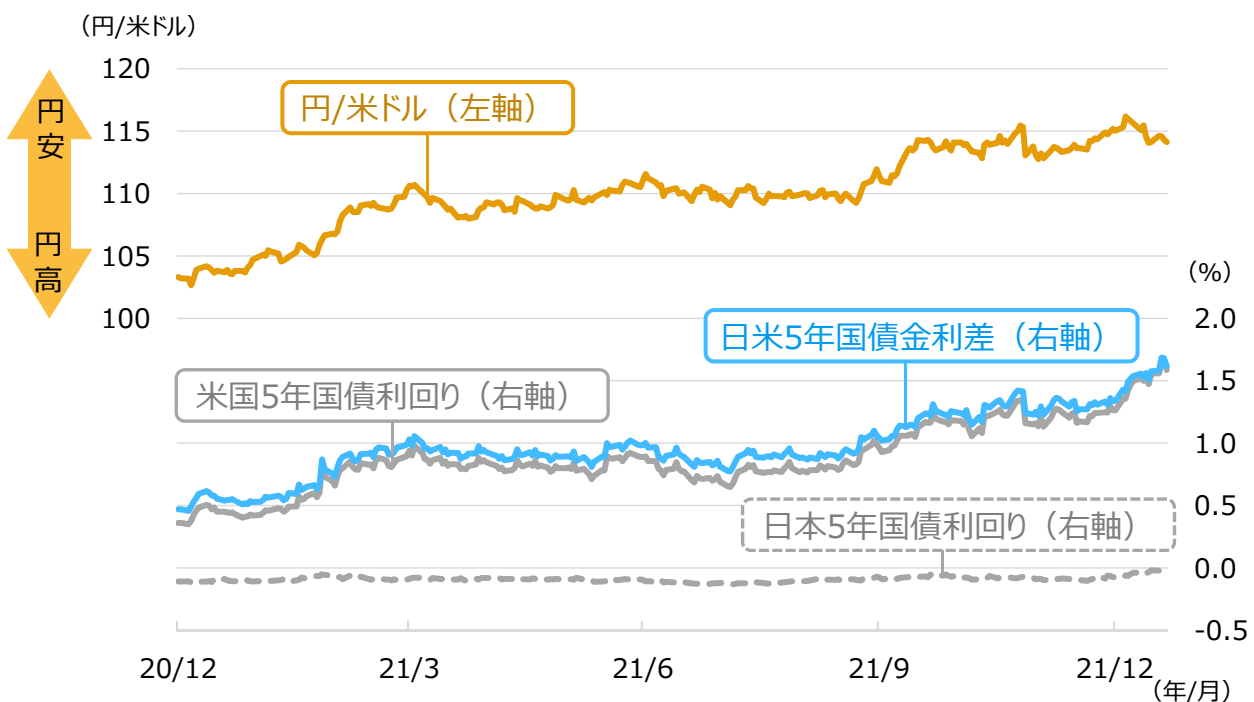
円/米ドルの相場の動きをみる場合は日米の金利差に注目してみましょう。一般的に**2カ国間の金利差が広がると、金利の高い国の通貨が買われ、金利が低い国の通貨は売られる**傾向があります。

長期金利に比べて金融政策の影響を受けやすいとみられる中短期国債（例として日米5年国債）の金利差をみると、円/米ドル相場の動きと相関が高くなっていることがわかります。

米国経済は経済正常化による個人消費の回復や資源価格の高騰などから足元でインフレ傾向が続いており、金融緩和縮小や利上げの早期化が見込まれることから、金利が上昇傾向で推移しています。

一方、日本では低金利の継続が見込まれることから、**今後さらに日米金利差が拡大する場合は、円安米ドル高が進む**ことも考えられます。

日米5年国債利回りと円/米ドルの推移



(注) データは2020年12月末～2022年1月20日、日次。
(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※上記は過去の実績であり、今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。
※この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

【重要な注意事項】

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DS アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。